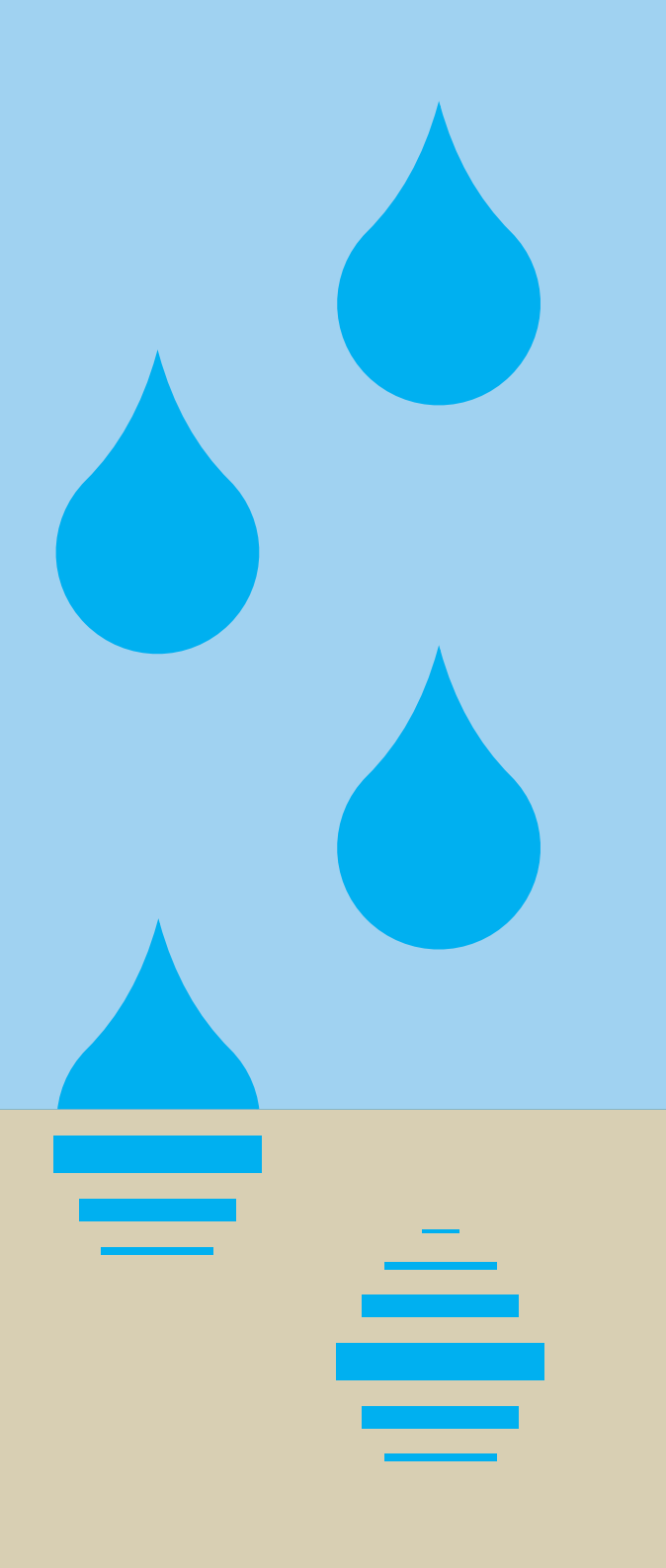
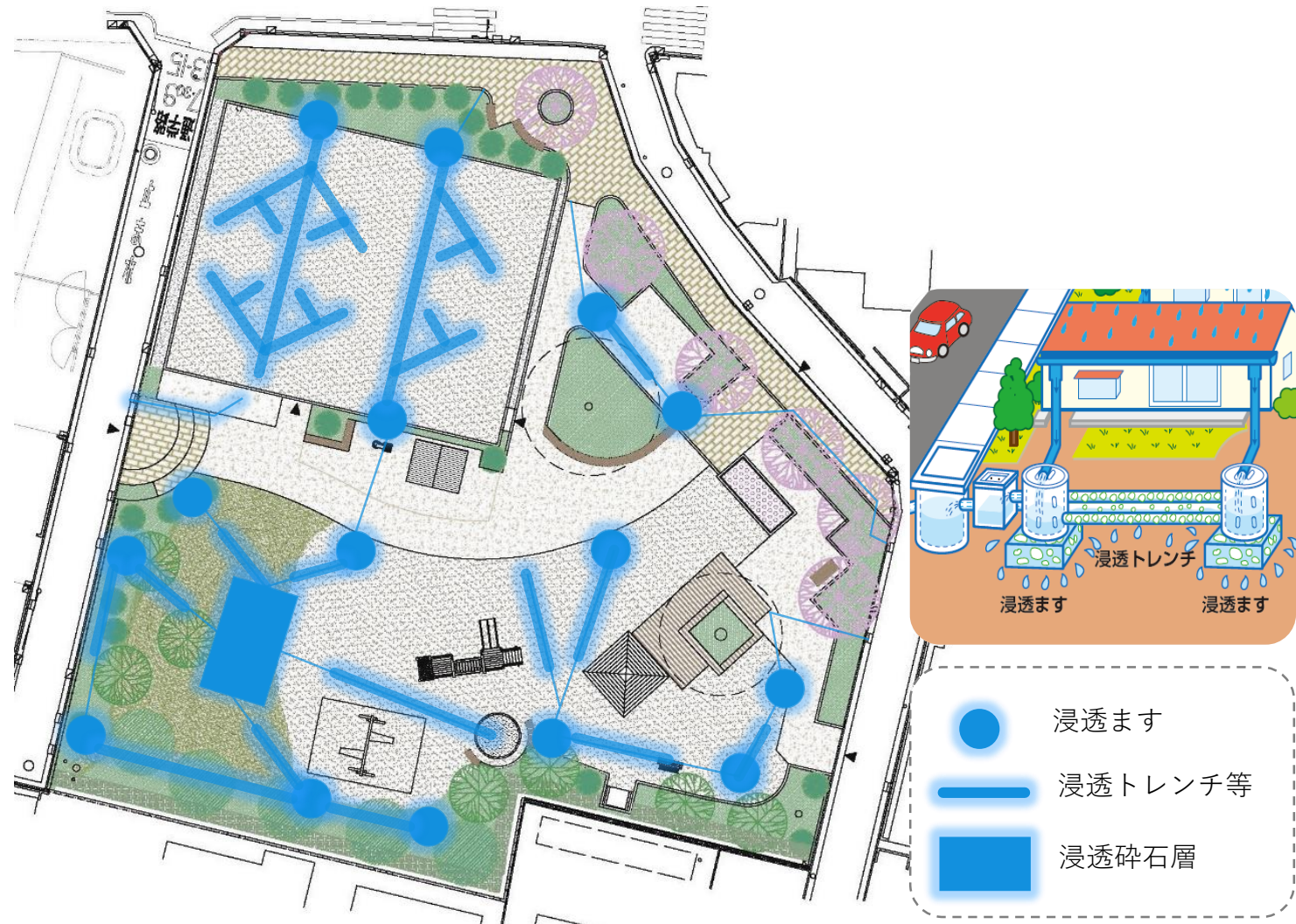


雨を浸透させる取り組み

公園は草地や植栽地に多くの雨が浸透する「グリーンインフラ」です。地面を覆うブロックや舗装は透水性にすることで雨水を浸透させます。さらに、浸透ます（15箇所）や浸透トレンチ等（約240m）などの設置により、大雨を一時的に貯留し、ゆっくり浸透させ、川の氾濫を防ぎます。



災害・火災・安全

富士見丘北公園には、災害時や火災時に活躍するポンプ置き場や防火水槽があります。また、歩行者が安全に歩けるよう、公園整備に合わせ、北側道路と東側道路沿いに歩道状の空地を設けました。

ポンプ庫
・
防火水槽



北側道路



東側道路



みどりを守り増やす

富士見丘北公園にもともとあったサクラ、ケヤキをシンボルツリーとして残すことができた一方で、道路拡幅等により残すことができない高木もありました。そのため、新たに植えたサクラやヒトツバタゴなど高木27本をはじめとした、増やしたみどりも大切に育てていきます。



全世代のための公園

富士見丘北公園の拡張整備は令和3年11月～令和4年2月まで、計4回のワークショップを通じて基本理念をまとめました。1つめは地域の公園として幼児から高齢者まで全世代が利用できる公園、2つめは地域の特徴を活かしシンボル性があり親しみやすい公園、3つめは住民参加やコミュニティづくりの場として活用できる公園です。

